

**製品名: アクチン  $\alpha$ 3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06545**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	45kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ACTG2
別名	ACTG2; ACTA3; ACTL3; ACTSG; Actin; gamma-enteric smooth muscle; Alpha-actin-3; Gamma-2-actin; Smooth muscle gamma-actin
遺伝子 ID	72.0
SwissProt ID	P63267
免疫原	抗血清はヒトアクチン $\gamma$ 2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

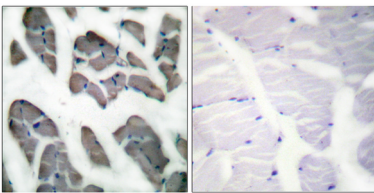
アクチンは高度に保存されたタンパク質であり、様々な細胞運動と細胞骨格の維持に関与しています。脊椎動物では、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  の 3

種類のアクチンが同定されています。αアクチンは筋組織に存在し、収縮装置の主要構成要素です。βアクチンとγアクチンは、細胞骨格の構成要素として、また細胞内運動のメディエーターとして、ほとんどの細胞種に共存しています。この遺伝子は、腸管組織に見られる平滑筋アクチンであるアクチンγ2をコードしています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。関連アクチンのペプチド切断との類似性に基づき、この遺伝子の成熟タンパク質は、2つのN末端ペプチドの除去によって形成される。[RefSeq 提供、2010年12月]機能:アクチンは、さまざまな種類の細胞運動に關与する高度に保存されたタンパク質であり、すべての真核細胞で普遍的に発現している。、その他:脊椎動物では、アルファ、ベータ、ガンマの3つの主要なアクチンアイソフォームのグループが特定されている。アルファアクチンは筋組織に見られ、収縮装置の主要構成要素である。ベータアクチンとガンマアクチンは、細胞骨格の構成要素として、また細胞内部の運動のメディエーターとして、ほとんどの細胞タイプで共存している。、類似性:アクチンファミリーに属する。、サブユニット:球状アクチン (Gアクチン) の重合により、2本鎖らせん構造のフィラメント (Fアクチン) が形成される。各アクチンは他の4つのアクチンと結合できます。

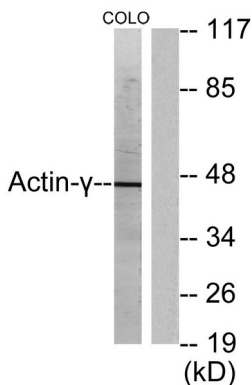
## 研究分野

血管平滑筋の収縮;

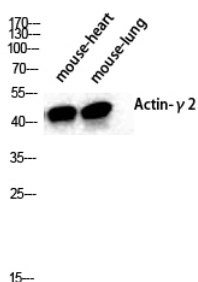
## 画像データ



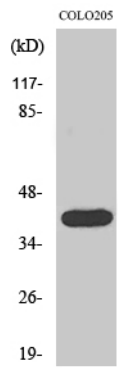
アクチンγ2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205細胞ライセートのActin-γ2抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000希釈のアクチンα3ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



1: 2000 希釈のアクチン  $\alpha$ 3 ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタン  
プロット解析